



# さんにとちだより

荒川区立第三日暮里小学校  
発行日 令和4年2月28日  
発行者 校長 末永 寿宣

## 3月号

学校目標  
考える子  
たくましい子  
思いやりの  
ある子

## 三日小のハイブリット授業

～「学びを止めない」ために

校長 末永寿宣

三日小では、オンライン授業配信を実施するに当たり、登校希望の子どもとオンライン希望の子どもへのサポートの両立をどのようにすればよいか、教職員で協議し「ハイブリット授業」を実施することにしました。

オンライン授業配信を初めて体験する教員もあり、校内研修会を念入りに行い、どのクラスでも発達段階に応じた対応に取り組んでいます。子どもたちと教員のストレスを最大限解消する方法を模索しながら日々挑戦しています。今年度、最終号となる本号では、この一年間、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、「学びを止めない」取り組みについてお伝えいたします。

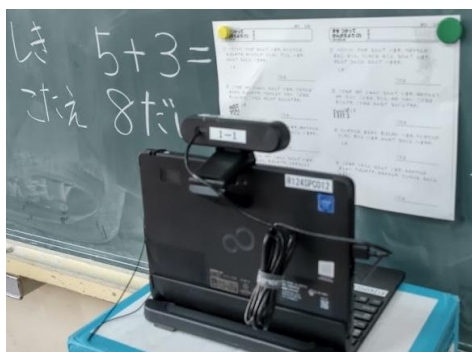


### 教員研修

感染拡大に伴い、「学校閉鎖」を想定しオンライン授業配信の研修会を校内で行いました。「学級閉鎖」や「受け入れ中止期間」など、状況が変化中、その都度柔軟な対応が求められました。ご家庭の通信状況によっては、映像や音声途切れることがあり、解消策として画像と音声を切り分けたり、手を挙げた子どものみを画像表示したりするなど、工夫しています。

### 配信工夫

教員の手間をどれだけ省けるかが、働き方改革を進めるためにも必要でした。



授業で使うワークシートや問題プリントは、手間をかけないためにカメラで直接写し、自宅でノートに回答します。授業の流れを配信機器の操作で中断させず、先生と子どもの操作を極力抑え、課題に集中させる工夫です。



## コミュニケーション重視

「受け入れ中止期間」になっているクラスでは、全員がオンラインで学習しました。先生がいつものように授業を行い、黒板全体を配信します。子どもたちの画像は、通信を圧迫するためスタートは全員つけず、意見のある子どもが「挙手アイコン」で知らせると、その子どもだけ映像を映します。教室では、子どもたち同士の意見交換も行い、オンラインで授業を受けている子どもに疎外感がないようにしています。登校の子どもたちは、今まで以上に扉や窓を全開にして換気し、暖房をつけて上着を着て学習しています。



## 設定サポート

オンライン授業配信に参加している子どもたちに向けて、先生が個別に操作の仕方を説明しています。新しい設定の仕方も質問に答え、サポートしています。休み時間に友達同士で教え合う場面もありました。



## 学級活動

「三日ことばクイズ」の問題の出し合いでも、ヒントを出してそれに関連する共通の言葉を探します。オンラインで参加している子どもも積極的に回答していました。また、学級会では、オンラインの垣根が取り払われ、子どもたちの自主運営もスムーズです。



## 直接・間接ゲストティーチャー

1年生の国語「たぬきの糸車」の学習では、実際に糸車をゲストティーチャーに説明していただき、糸すきの体験もしました。また、5年生では、大手新聞社の英語版編集者を直接お招きし、新聞の編集で大切なことを学んでいます。6年生の金融教育でも、証券会社の担当者をオンラインでお招きし、インターネットを介して、金融のしくみを理解し、金銭感覚を養う内容を教室で学んでいます。さらに謝恩会の準備では、学年閉鎖を想定し当日の演目をビデオで収録するなど、いざという時のための準備をしました。謝恩会が実施できてよかったです。今後も工夫を重ね、「学びを止めない」教育活動を継続してまいります。ご支援ください。